

北海道 みなとまち紀行

小樽編①
第1号



《発刊のご挨拶》

北海道みなとまち紀行の発刊にあたって

NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構
理事長 眞田 仁

当 NPO は平成 15 年 7 月に発足して以来、北海道における「みなとまちづくり」を地域の方々と一緒になって進めてきました。そして、「伝言板」という広報誌を通じて、その活動内容とともに、各地域で開催された各種行事やみなとまちづくりに関する出来事を皆様にお伝えしてきました。

まもなく設立 20 周年を迎えるにあたり、NPO の活動をさらに充実させ、もっと多くの方にみなとまちづくりを知っていただき、できればそれを一緒に体験していただきたいという思いが強くなってきました。「北海道みなとの文化研究室」の立ち上げもこのような思いを实践するためです。

今回、「北海道みなとまち紀行」を発刊することになったのは、みなとまちづくりに情熱を持った同研究室のメンバーによる真摯で熱い議論の結果です。まずは、メンバーが中心となって、全道の“みなとまち”を訪れ、その町の生活や文化を市民目線で紹介していこうというものです。

北海道は広大で、かつ海に囲まれているので、各地にユニークな“みなとまち”が存在します。「北海道みなとまち紀行」を通してそれらの特徴をなるべく肌感覚で感じ取っていただけたら幸いです。読者の皆さんからの意見や耳よりな情報もウェルカムです。本紀行を読んでいただくことで、“みなとまち”を舞台に様々な交流が生まれることを期待しています。どうぞよろしくお願いいたします。

《小樽港①》

第1回目は、北海道開拓の前進基地として重要な役割を果たした小樽を訪ね、建築と美術と食を楽しむ旅です。今回のルートは、小樽駅に降り旧手宮線跡を辿って旧日本郵船を訪ね、小樽運河に沿って南下して小樽芸術村の美術館を周り、老舗の菓子店あまとう本店に寄って小樽の味を満喫して札幌に帰る行程です。

【札幌駅から小樽駅まで】

札幌から「エアポート」に乗り市街地を通り抜け銭函に出ると、一面に石狩湾の青い海が広がります。ここから電車は張碓峠の海岸線を這うように進行し朝里に向かいます。明治4年(1871)に手宮と札幌を結ぶ札幌新道が建設されましたが、この辺は少しの風が吹いても越波が激しく交通の障害になっていました。それを解決したのは、合衆国から招聘された鉄道マンの J・クロフォードでした。彼は着任すると難事といわれた張碓に行き1カ月の調査を行い、トンネル工事を短期間にやってのけて道路を通し、翌年の明治13年(1880)には鉄道を手宮から札幌まで敷設しました。

朝里を過ぎると海面に長く伸びる人工物が見えてきます。日本近代築港の金字塔といわれる小樽の防波堤です。手前から南防波堤、島防波堤、そして我が国で初めて外洋に建設した北防波堤が続きます。電車



雪が舞う小樽駅

は間もなく小樽築港駅に停車、次いで南小樽駅、そして終点の小樽駅に到着しました（地図①）。

【小樽駅から旧日本郵船へ】

人が込み合う駅舎を出ると港に向かって一直線に伸びる中央通りの先端に白いふ頭が見え、その先に青い海が広がっています。緩やかな坂道を下ると、まず商店が並ぶアーケード街が見えてきます。この通り（都通り）は榎本武揚（えのもとたけあき）の雅号にちなみ「梁川（やながわ）通り」と呼ばれていました（地図②）。また、この通りの2ブロック上側には「静屋（しずや）通り」があります（地図③）。北垣国道の雅号の「静屋（せいおく）」を訓読みして通りの名前にしたのです。

小樽駅周辺一帯は、箱館戦争を戦った榎本武揚と第4代北海道庁長官で琵琶湖疏水を完成させ京都の復興を成し遂げた北垣国道の土地でした。市街が南の勝内川から北方に拡大してきたのに伴い、山を地均しし

て整備しました。その時の事情を北垣は日記「塵海」に次のように記しています。

一高知県知事になって以来、公の仕事のために財産を使い果たし負債を重ねてきたが、榎本武揚さんと相談して明治5年（1872）に払下げを受けた小樽の10万坪の土地を売って負債を無くすことができた—

北垣は営利のためではなく、人々が（永住を決意して）北海道の土地の払下げを願うようになることを期待して、率先して土地買収の模範となる土地の払下げを申し出たのです。

さらに中央通りを下ると旧手宮線の線路が横切っています（地図④）。幌内炭田の石炭や十勝の小豆などが運び出され、本州からの移民や物資が運び込まれた鉄路です。小樽発展の大動脈となりました。



梁川通りといわれた現在の都通り。榎本武揚の垂れ幕が迎えてくれる



静屋通りと北垣国道(京都府上下水道局・田邊家所有)



小樽駅から港に下る中央通りを横切る旧手宮線の線路



雪が降る日でしたが、線路沿いを散歩する地元人に何度か出会いました

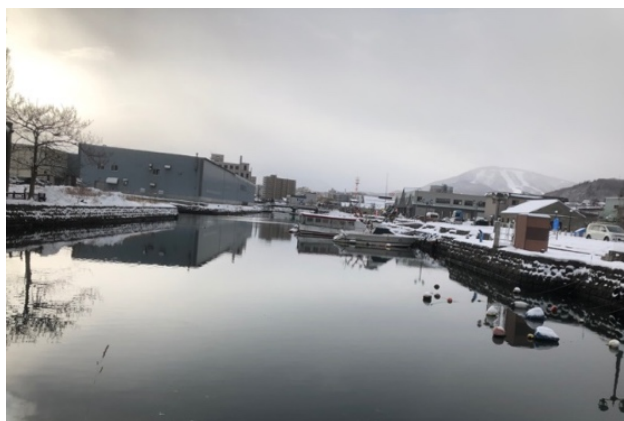


明治 39 年(1906)に国有鉄道となり石炭専用の駅になったが、
大正元年(1912)に旅客専用の駅になった旧手宮駅

この線路を辿って港に向かうと近世ルネッサンス様式の石造 2 階建ての端正な建物に行き着きます。旧日本郵船小樽支店(国重要文化財)です(地図⑤)。建物の美しい彫刻と装飾模様が見られるはずでしたが、辿りついてみると、工事中でシートに覆われ建物内部に入ることができませんでした。日露戦争に勝利した日本は、明治 39 年(1906) 11 月、ここでポーツマス条約に基づいて、サハリンにおけるロシアとの国境を決める樺太国境画定会議を開きました。



旧日本郵船の建物は工事中で、覆いに包まれて見えませんでした



小樽運河の北端から撮影。
当初の面影を残し、建設当時と同じ 40m の幅がある

建物の前はかつて日本郵船の倉庫と船入澗があったところで、平成 10 年(1998)に運河公園として整備されました。公園の中央には噴水があり、小樽港建設に貢献した廣井勇博士とその愛弟子である伊藤長右衛門の胸像が立っています(地図⑥)。しかし連日の雪で公園内に入ることができません。道路から何とか廣井先生の胸像に近づき写真を撮るのが精一杯でした。ここから、小樽運河の北端に出て、運河を散策しながら南下し、お目当ての小樽芸術村に向かいました。



運河公園に建つ廣井勇先生の胸像



運河の遊歩道には、小樽の繁栄の歴史を刻むレリーフが並んでいる



旧浪華倉庫の大空間を活用した西洋美術館。手前に小樽運河がある

【小樽芸術村】

この芸術村には運河をはさんで 4 つの近代建築が建っています(地図⑦)。まず旧三井銀行小樽支店(国重要文化財)で似鳥美術館学芸部長の磯崎亜矢子さんにお会いしました。このルネッサンス様式の端正な建物は昭和 2 年(1927)に竣工しました。外壁は北木島(岡山県)産の花こう岩で、深い軒が建物の周囲をめぐり、正面には彫りの深い 5 連のアーチが並びます。玄関を入ると白く高い天井に施された模様と 2 階の柱に施された洗練された意匠が目を惹きます。受付に名前を告げると磯崎さんが出てこられて、ホール中央の椅子をすすめられました。戸惑いながら椅子に座るとホールの照明が消され、天井一面に波、風、雪の結晶などをイメージした幻想的な模様が次々に映し出さ



天井を彩るプロジェクションマッピング《Si-Ki》馬場ふさ子さんの作品
(似鳥美術館提供)



似鳥美術館学芸部長の磯崎亜矢子さん(右)と学芸員の神(じん)朱里(あかり)さん



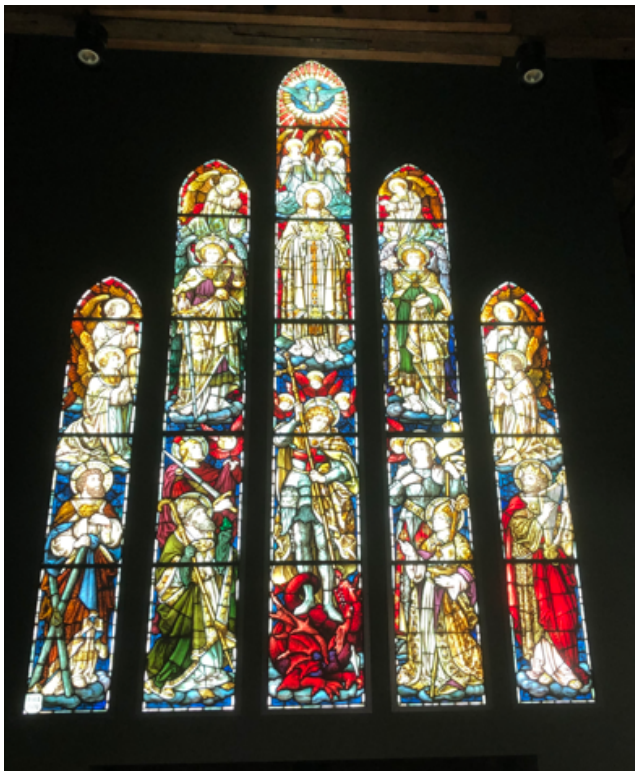
重要文化財の旧三井銀行小樽支店



ステンドグラス美術館

れました。遠い昔の記憶が蘇ってくるような感覚でした。このプロジェクションマッピングは馬場ふさ子さんの作品で“Si-Ki”という名前が付けられています。

それから隣接するステンドグラス美術館に案内されました。旧高橋倉庫と旧荒田商会の建物です。磯崎さんの説明では 19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけてイギリスで製作された教会のステンドグラスを集めた美術館とのことでした。倉庫を改造した美術館の中央には、第 1 次世界大戦における戦勝記念と戦没者哀悼の意を込めて製作された《神とイギリスの栄光》と題するステンドグラスが見上げるように置かれています。2 階に展示された《最後の晚餐》や《カンタベリー物語》も印象的でした。



《神とイギリスの栄光》

このステンドグラスは1914年～1919年頃、第一次世界大戦の時期に制作され、戦勝記念と戦没者を追悼して協会に寄進されたものです。第一次世界大戦では同盟国としてイギリスとフランスが共に戦ったので、フランスの聖人であるジャンヌ・ダルクが描かれています。

ここで一息入れて昼食です。ステンドグラス館の隣の中華料理店ハオで、小樽のB級グルメとして有名な「あんかけ焼きそば」を注文しました（地図⑧）。量も十分、おいしくいただき食後のコーヒーを楽しんだ後は、旧北海道拓殖銀行小樽支店であった似鳥美術館へ。1階にはステンドグラスを芸術の域に高めたルイ



似鳥美術館(旧北海道拓殖銀行小樽支店)の外観。地下1階から4階まで日本画、洋画、彫刻、ステンドグラスなどが展示され、多彩な作品をゆっくり鑑賞できる



《メモリアル・ウインドー希望》ルイス・C・ティファニー作

ス・C・ティファニーの《メモリアルウインドー希望》をはじめとする作品が並び、その素晴らしいステンドグラス制作の秘密を学ぶことができます。次に4階までエレベーターで昇り、美術を鑑賞しながら下の階に移動しました。

4階は近現代の日本画が展示されています。伊藤若冲、横山大観、河合玉堂などの大家の作品が展示されています。その向かいの壁面には、日展を中心に活躍した「日展の三山」の言われた東山魁夷、高山辰雄、杉山寧と加山又造、平山郁夫の親しみのある作品が並び、しばし時間を忘れて鑑賞しました。

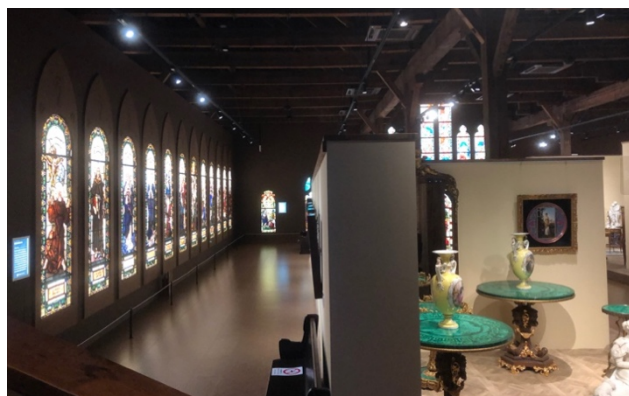
3階では近現代の洋画と彫刻が展示されています。エコール・ド・パリの寵児とうたわれた藤田嗣治の《カフェにて》、シャガールの《窓の前の恋人たちと花》などよく知っている作品もあります。2階は高村光太郎の父である高村光雲とその弟子たちの木彫の作品が企画展示されていました。明治期に入り、日本古来の木彫の伝統が顧みられなくなった時代に、その芸術を守り発展させた人たちの作品が並んでいます。

そして最後は旧浪華倉庫だった西洋美術館へ。アール・ヌーヴォーやアール・デコの作品がいっぱい。ア

ール・ヌーヴォーの先駆的作品である《花と鳥のいる風景》は、格子にカットされたガラスに色とりどりの花が描かれ、その周りを華やかに蝶や鳥が舞う爽やかな作品。アール・ヌーヴォーの調度品に囲まれたアール・ヌーヴォーの間は、当時の雰囲気を楽しむことができます。



アール・ヌーヴォーやアール・デコのガラスが展示されている



ステンドグラス(左)や家具(右)の展示



入口にはガラス工芸も商品が陳列されている

磯崎さんが「この芸術村で、岡山にある大原美術館のように普段着のまま優れた芸術を楽しんでいただけたら幸いです。」と話しておられたように、とても爽やかな印象が残る芸術鑑賞でした。

【クリームぜんざい】

芸術を楽しんだ後は、「クリームぜんざい」で有名な都通りの喫茶室「あまとう」へ（地図⑨）。創業は昭和4年（1929）。「店名を「あまとう」に改名したのは昭和30年代。昭和35年（1960）に「クリームぜんざい」を売り出しました。粒入り餡と餅の上にたっぷりのソフトクリームがのった商品です。お店に入り2階の喫茶室に向かおうとしたら、店員さんから「今は喫茶室を閉めていて、開店の予定はたっていない」とのこと。仕方なくテイクアウト用の「クリームぜんざい」を買い、店の横にある長椅子で味わうことになりましたが、ほど良い甘さと餅の粘りがマッチし、ロングセラーであることが納得できるおいしさでした。



都通りにある洋菓子店「あまとう」。2階は喫茶室になっているが現在閉店



テイクアウト用のクリームぜんざい

帰りに小樽駅の南側に隣接する石川啄木の歌碑に寄りました（地図⑩）。

子を負ひて 雪の吹き入る停車場に
われ見送りし 妻の眉かな

函館で妻子とともに平穏な日々を送っていた啄木が、函館の大火によって小樽に逃れて新聞記者として過ごしていた日々の一コマ。生活の厳しさが迫ってきます。この歌碑を見て、啄木が少年時代、郷里の不来方城（こずかたじょう。盛岡城）の草に寝転んで無心に青空に遊んだ頃をうたった歌を思い出しました。

不来方の お城の草に寝転びて
空に吸はれし 一五の心

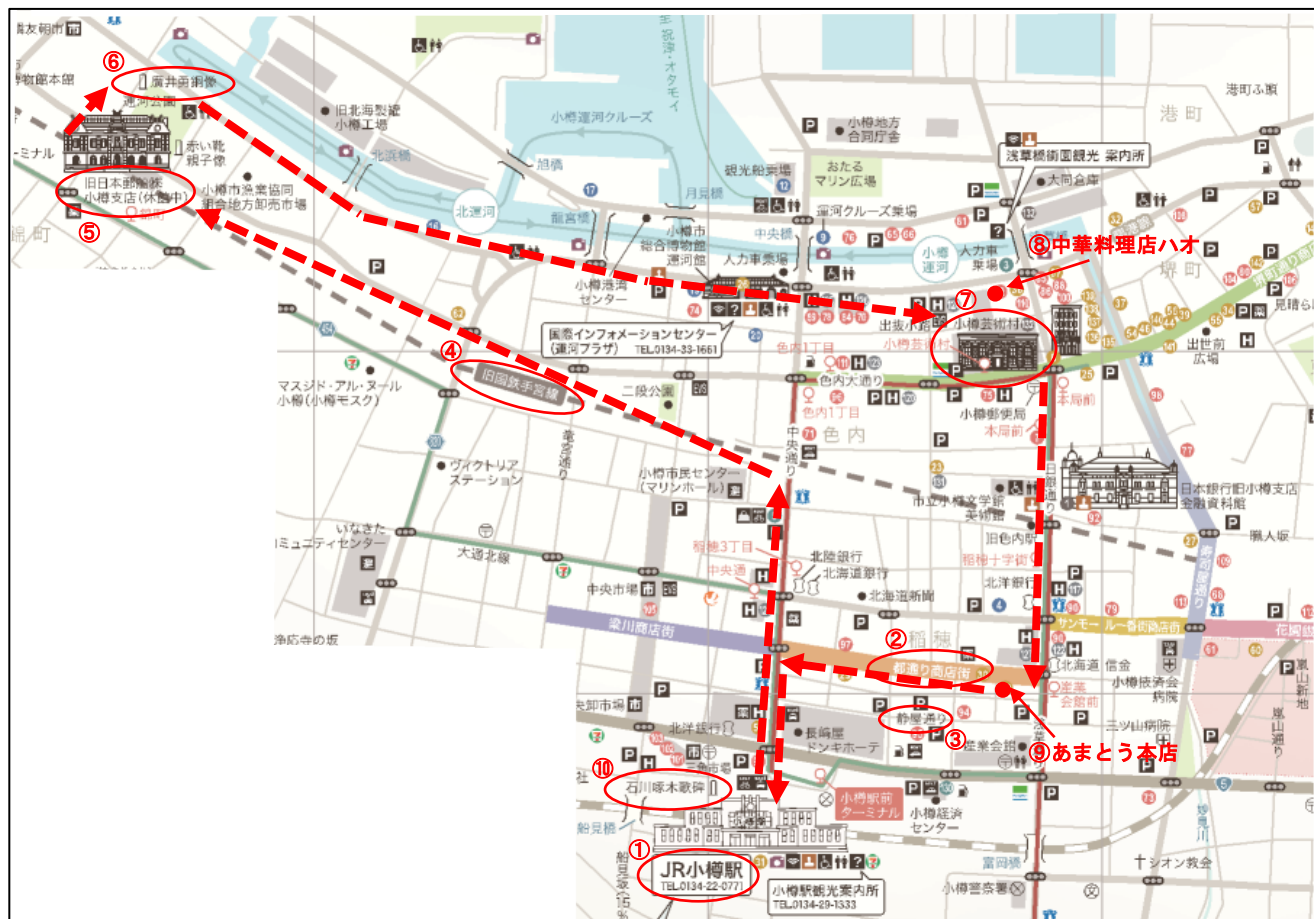
いくつになっても持っていたい心です。そんなことを思いながら駅のホームに向かいました。

（関口信一郎 記）



啄木の歌碑。背後の建物は小樽駅。駅から歩いてくると歌碑の背面が見えるだけなので、存在が分かりにくい

【今回の散策ルート】



【今回の散策ミニ情報】

地図②

梁川通り(都通り)

小樽駅前の中央通りから、龍宮神社から下る龍宮通りまでの区間

地図③

静屋通り

小樽駅前の国道5号と平行に走る一本海側の三ツ山病院から小樽臨海線までの通り

地図④

旧手宮線跡地

色内1丁目9

寿司屋通りから、北海道鉄道発祥の地・小樽市総合博物館まで続く旧国鉄手宮線(1600mの散策路が整備)

地図⑤

旧日本郵船小樽支店

(国指定重要文化財)

色内3丁目7-8

※保存修理工事のため、令和6年(2024)6月(予定)まで公開を中止

地図⑥

運河公園

(廣井勇博士と伊藤長右衛門の胸像)

色内3丁目6

地図⑦

小樽芸術村

A 旧三井銀行小樽支店(重要文化財)

B ステンドグラス美術館(旧高橋倉庫)

C 似鳥美術館

(旧北海道拓殖銀行小樽支店)

D 西洋美術館(旧浪華倉庫)

色内1丁目3-1(似鳥美術館)

電話 0134-31-1033

開館時間[5~10月] 9:30~17:00

[11~4月] 10:00~16:00

変更の場合あり

休館日[5~10月] 毎月第4水曜日

[11~4月] 毎週水曜日

(祝日は翌日)

年末年始

入館料 4館共通券(一般2,900円)

A 一般700円 B 一般1,000円

C/D 一般各1,500円

(各館共に学生割引あり)

地図⑧

小樽中国料理ハオ

(小樽市指定歴史的建造物)

色内1丁目1-2-18 協和浜ビル

電話 0134-32-0680

営業時間 11:00~14:00 / 17:00~20:00

休日 年末年始

地図⑨

洋菓子店あまとう本店

稲穂2-16-18(小樽都通り商店街)

電話 0134-22-3942

営業時間 1階売店 10:00~19:00

2階喫茶 休業中

定休日 木曜不定休

地図⑩

石川啄木歌碑

JR 小樽駅そばの三角市場入り口前

<連絡先>

NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構

札幌市北区北11条西2丁目2-17 セントラル札幌北ビル5階

e-mail アドレス mail@minatobunka-npo.info

ホームページ https://minatobunka-npo.info